

10 補遺・資料

1. 補遺

(1) プログラムを受講した学生の声

①受講学生の最終レポート（参考掲載）

「気付きという成長」

法学部 3年 男子

提供企業：日本アイ・ビー・エム株式会社

課題：「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対してIBMはどのようなご提案・サービスを提供すべきか？」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

当初私にとってこの授業は、インターンシップで得たと感じた「課題発見力」を試す機会、そして今までの私に欠けていた新たな価値を生み出すために柔軟な発想力、すなわち「創造力」を付ける機会にしたいと考えていました。

課題解決に当たっては、学生生活での自分の不満を挙げるだけでは提案への説得力が薄いと思ったので、まず大学の本来の目的や役割と比較することで、自分の不満や改善したい点が本当に有効な解決策に結びつくのかを立証しようと考えました。そうして大学や教育に関する多くの資料を読む中で、今の大学における課題や問題点を知ることができました。このように「本質」を探求する姿勢から私は「課題発見力」を養うことができたと思います。

「創造力」に関しては、今まで私は何か新しいアイデアを出そうとすると一人で抱え込んで悩むことしかしていませんでした。しかしディスカッションの中で、メンバーの何気ない一言が面白いアイデアや提案に繋がることが多くあったのです。このことから、新しい価値を生み出すにはとにかく考えを表面に出してみることが大事だと気付きました。自分だけでは自信が無くても、周りの意見も取り入れることで次に繋がるかも知れないので、その第一歩を躊躇しない前向きさが必要なのです。

私は、この授業を通じて成長したとも思いますし、まだまだだなとも思います。大切なことはこれで満足しないということであり、これからまたどう成長していくかということです。そう思えるようになったことが一番の成長かもしれません。PBLはその大切なことに気付かせてくれた、素晴らしいきっかけとなりました。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

ゼミや少人数制などの授業を除いて、教授から学生への一方通行な授業が多いと感じていました。しかしPBLで主体性も身に付いたので、授業後教授に質問に行くなど自分から積極的な学びを意識できるようになりました。

3. PBL から学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

この授業で得た社会人基礎力や気付きは、これからの授業、就職活動、そして社会人として働き始めてからも活かして行きたいと思っています。

今回の PBL で、私は「情熱家」であることを改めて思い出しました。こんな自分でも、一生懸命であればその熱意が自然と周りにも伝わって、人の心を動かすことができるのだと自信を持てたような気がします。

今後も人と接する中で自分の良いところを発揮していきたいです。PBL では 4 回生になってもアドバイザーのような形で協力できたらいいなと思いますし、他にもボランティア活動などで人の役に立てるようになりたいと思っています。そして社会人になっても熱い気持ちで仕事に励みたいと思います。

「新たな気付き」

法学部 2 年 男子

提供企業：日本アイ・ビー・エム株式会社

課題：「5 年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対して IBM はどのようなご提案・サービスを提供すべきか？」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

自分は、この授業を通して社会人基礎力を身につけようと思いこの授業に参加しました。しかし、ただ企業の方からの課題をこなしていけば社会人基礎力が身につくだろうと自分は思っていました。そのため、社会人基礎力の 12 の要素をあまり意識せずに課題を解決しようとし、社会人基礎力がこの授業を始めたときよりも身についたとは言えないと自分は思います。しかし、意識せずともこの授業で 12 の要素のうちのいくつかは身についたと思っています。例えば、この授業の始めのほう自分はあまりグループ内で発言しませんでした。それが段々と発言するようになっていたということなどです。少人数ということもあり、少しずつですが段々と発言するようになっていきました。これは自分にとっては一番の成長かもしれません、今まで人の話ばかりを聞いていた自分にとって発言をするということは、自信が無かった事に自信が持てるようになったということだと思います。

また、この授業を通して発言することだけでなくグループ活動において大切なチームワークを学べたと思います。中間報告・最終報告と進んでいくにつれて、ぎこちなかったグループが何をすべきなのかを考えられるグループになっていきました。話し合うことによって、何をすべきなのかを考え行動していく。チームワークにおいて話すことが一番大事だと思いました。その中では意見の対立というものもありましたが、それはグループでしている以上必ずあります。でも、それが課題を解決することにおいて大切なものであり、

本音で話すことでチームワークをよりよいものにできたのではないのでしょうか。

最後に、この授業に参加して、自分では気づいてはいないのですが自分は変わったと同じチームの人から言われます。確かに色々なことに積極的に参加していくようになったと思います。それが何故だかは分かりませんが・・・自分にとってこの授業はプラスになったことは確かです。まだまだ、自分の社会人基礎力は身につけていないと思いますがこれから色々なことに挑戦していくことによって少しずつでもいいので身につけていけたらいいと思います。

2. PBL を受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

PBL を受講して、参考となったものは自分と違う立場の人と一緒に課題を解決していったということではないのでしょうか。自分とは違う視点での大学についての考えを持っていたりして、それは自分にとって広く物事を見ることができるようになるために参考になりました。自分が考えている大学とは違う大学のイメージを知り、それを受け入れて新たな大学像を見ることがありました。またそれが、同じキャリア関係でのファシリテータの活動にも少なからず影響が自分にとってあったと思います。

3. PBL から学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

この PBL から学んだことをどのように活かしていくのか。自分はこの PBL からコミュニケーション能力が完璧にとは言えませんが身についたのと思います。これを来学期から始まるピア・サポーターなどで使っていけたらと思っています。大学生の初めが一番大事なのでそれをよりよいものする手助けができればと思います。また、ここで学んだこと（チームワークやコミュニケーション能力）をファシリテータの活動にも役立てていきたいと思っています。

「気づきの機会と意識の変化」

法学部 3年 女子

提供企業：小林工芸株式会社

課題：「新商品をブランドに持っていく戦略」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

小林工芸クラスでは、他のクラスと違い学外活動に力を入れなくてははいけませんでした。それは、商品、社長の想い、戦略について把握し、そこからブランド化をしなくてはならないからです。

そこでは社長や、40代以上の方とお話する機会が多く、年上の方に失礼のないようにするように言葉遣いや礼儀には特に気をつけました。また、年上の方にも積極的に話しか

けお話を伺うことで新たな考えが生まれることもありました。例えば幼児向け教材にしてはどうかということは目上の方に行ったアンケート調査の結果と、保育士の方へのヒアリングによって生まれました。私は、積極的に知りたい、もっといい意見をだしたいという思いから、アクションを起こしました。その結果、幼児教材向けではあるが改善したほうがよりよい商品になる点を見つけました。それは、先が尖っているため幼児には危ないということ、また教材にしては価格が高値であることから現時点での教材としての使用は難しいということでした。これらも社長にお伝えすることができ、新商品への戦略だけでなく、このようにしたらもっといいですよという提案もできたことはとてもよかったです。

また、個人での成長では、傾聴力、柔軟性において成長したのではないかと思います。

私は最初傾聴力がありませんでした。3回生として他の2回生をまとめなくては行けないという意識が先立ってしまい、積極的に発言しなくてはならないということしか考えることができませんでした。

しかしそれではチームで行動している意味がないのではないかと段々思うようになり、3回生に遠慮しがちな2回生の話をひきだすことができるようになろうと努めました。その結果、意識する前よりも活発に意見の交換ができるようになり、課題が何なのか、これからどういうふうに取り組まなくてはならないかということを中心に把握できるようになりました。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

私はゼミで、PBLを通して身につけた力を応用しました。私はゼミでゼミ長をしているのですが、消極的なゼミで授業中も活発に発言をせず、意見を交わし合うことをしていませんでした。なので、どのようにすればゼミが活発になるかということ先生とも相談し、飲み会を企画するなど自分たちで考えられる範囲で改善しようとしていました。

しかしそれは根本的な解決策ではなく、活発な学生とそうでない学生による温度差を広げてしまう結果になりました。

これではいけないと思い私はPBLでアンケート調査によって新たな意見を得ることで直面した壁を乗り越えたことを思いだし、活かすことにしました。すると、ゼミ生からは個人単位のゼミであるため消極的なのではないかと、もっと飲み会とかではなくゼミ中に横のつながりを強くしたいという声が多くでました。

それを先生や全員で共有した結果、もっと積極的に人の研究に質問したりするようになり、グループワークなどをとり入れることにしました。その結果、以前では考えられなかったくらい積極的に質問するようになり、横のつながりが強化されました。

3. PBLから学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

私はこのPBLは気付きの機会を得ることができました。今の自分に何が足りなくてどこを今後伸ばしていかなければならないかと自分を見つめ直す機会になったのです。

私は特に傾聴力と柔軟性にかけていました。しかし、たった4ヶ月の間にこれらの力は

身につきました。こんなに短期間で成長することができたことは今でも本当に信じられません。変わろうという意志があれば、いつでも成長するということも感じました。私は今就職活動中ですが、とても厳しい時代だなと身を持って感じます。しかし自分はこうありたいという姿を常にもち、ゴールセッティング(人生にゴールはありませんがここでは内定を仮のゴールとします)をすることで常に高い志を持ち行動しようと思います。

また、今回の経験で相手の立場に立つことの大切さを感じました。社会に出るとどんな職種でも、お客様、取引先、上司、と相手が存在します。そういった時に、相手のことを考えて話し相手が今何を求めているかということを考えられる人になりたいです。

「私の change。」

経営学部 3年 男子

提供企業：小林工芸株式会社

課題：「新商品をブランドに持っていく戦略」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

自分が一番伸ばしたいと考えていたテーマは、社会人基礎力を通して経営学部の専門知識を実践でどのように活用させるかということでした。まず課題を小林社長から聞いてから一度自分で考えてみました。しかし私は経営学部なのにマーケティングのことなどほとんどわかりませんでした。自分の無知に驚きましたし、いい提案ができるのかかなり不安になりました。課題を提供してくれた小林社長に対しても中途半端な提案なら失礼だと考え、もう一度一からマーケティング・経営学について学び直しました。マーケティングの本も何冊も読みましたし、ネットでもかなり調べ知識を増やしていきました。そしてその自分で学んだ知識を PBL の授業に使えるものは盛り込んでいきました。

しかし自分としてはいいものを作りたいという思いが強すぎてみんなに押し付けてしまい、結果として皆を迷わせてしまったのではないかと後から気付きました。確かに経営学部ならともかく経済学部・法学部・外国語学部には聞いたこともないような言葉が出てきて意味がわからなかったと思います。そういう意味で自分の考えていることを他の人にもわかりやすく伝える難しさを改めて実感しました。チームワークがこのような場面でも必要になってきて、特に柔軟性・傾聴力というものに力を入れないといけないことがわかりました。

そして専門知識を得るのに経営学部の教授などの人に聞きに行ったりすることで、どんどん経営学について興味を持つようになりました。最近では経営学だけにとどまらず経済学・法律など他学部のことにもかなり興味があり勉強しています。この PBL で商品戦略や市場調査を実践することによってどんなふうに専門知識が生かされるかもわかりましたし、まだまだ自分には知識が足りないこと、またその得た知識を知恵に持っていくことの難しさが今まで考えていたよりも大きかったです。これから社会に出て行っても興味・関心を持つことで学ぶことに対して貪欲になっていきたいと考えます。今の大学生にはその

学びに対しての食欲さというか、意欲が感じられない気がします。

今の京都産業大学でテストをしてみるとおそらく30点いくかいかないかだと思います。このままではいざ仕事についても、何がしたいのか・何を学びたいのかわからなくなり仕事を辞めてしまったり悪い方向に進んでいくのではないかと私は考えています。これは自分のおごりかもしれませんが、私はPBLを通して数えられないくらいのことを学びましたし、経験してきました。その経験してきたことを先輩または同学年に伝えていくことで、大学で何をするのか・社会に出て何をしたいのかを発見できる手助けになればいいかと考えます。就職活動が終わったらぜひ就職アドバイザーになって語ってみたいです。かなり字数オーバーしましたが私の学びたかった専門知識の活かし方は、かなり学べたと考えています。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

私がPBLを受講して一番参考になったところは、もちろん授業などで参考になったこともありますが就職活動だと考えています。最終報告会でも発表しましたが、最初はほとんど自分の考えを言うことができませんでした。PBLが始まって最初の授業で5年後の自分というお題でみんながマインドマップを書き発表することがありましたが、5分間という時間で発表しなくてはいけないのに私は3分弱で終わってしまいました。なかなか自分の考えていたことをみんなに伝えるということができず、このような結果になってしまいました。

学校外でのセミナーなども同じような感じでした。主体的にできないし、課題も見つけられない、チームワークも微妙な感じでした。しかしPBLを受けているうちにアクション・シンキング・チームワークに意識を集中させていくことによってだんだん自分の意見を言えるようになりましたし、今では前と同じ5年後の自分というお題でも5分どころか小一時間話すことができる気がします。グループワークに行っても、自分に余裕が出てきたので周りが見えるようになってきました。自ら観点を見つけ出すこともできました。前の自分をタイムマシンで見に行くとおそらく別人になっていると考えます。

3. PBLから学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

今後どのように生かしたいかという、やはり社会人基礎力というだけあって社会に出た時に生かしていきたいです。また社会人基礎力以外にも「お客様思考」ということに重きを置いていこうと考えます。今回のお客様は小林社長ですが、私は常にいい提案を考えていました。上記でも書きましたが、中途半端な発表ならしない方がいいのではないかと考えてきました。そのため一生懸命マーケティングのことを勉強しよりいいものを提案できるようにだれよりもがんばってきたつもりです。

そうやって一生懸命やることによって東京で残念ながら負けてしまった時には涙腺が緩みかけました。しかしここで泣いてしまったらみんなの気持ちも結構暗くなるのではないかと考えてかなり頑張って我慢しましたがおそらく一人だけだったら号泣してしまっていたでしょう。結構話がずれましたが、要はお客様に対して全身全霊尽くしていく！！この

精神で仕事もがんばっていきたいし、もし失敗したとしても自分が一生懸命やっている姿を見たらお客様も気分が悪くはならないのじゃないかと思います。やはり私が目指しているところが金融系ということもありお客様に信用されてナンボだと思います。このことから常に全力投球できるように頑張っていきたいです。

私にとってPBLが大きなものだったためこんなに長くなってしまいました。すみません。

「成長と自信」

経営学部 3年 女子

提供企業：株式会社ベネッセコーポレーション

課題「社会人基礎力を身につけるためのプログラム作成」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

私は、自分に自信をつけたくて課題解決力実践授業に参加することを決めました。3年生になり自分の長所など考える機会が多くなったけれど、人と比べて欠点ばかりが目について、自分に自信が持てずにいました。そんな自分を変えたいという気持ちもあり、受講してみようと思いました。自分が変わるには、自ら進んで物事を行っていかなければならないと思い、社会人基礎力の中の、特に主体性を意識して取り組んでいました。

しかし、はじめのころは、何をすればよいかわからなかったし、自分に自信がなかったということもあり、授業での話し合いの時も積極的に発言したりすることはありませんでした。しかし、中間発表や企業訪問をきっかけに、それまでどこか他人任せにしていたということに気付かされました。それからは、今自分には何ができて、何をすべきなのかを考えるようになり、自分ができるとはするべきだと思い、自分から何かアクションを起こすことの重要性を知りました。

ディスカッションのときに、以前の私は、他の人の意見はただ納得するだけだったし、自分の意見に対して反論されたりすることを恐れていたけれど、今はいろんな意見で議論が盛り上がることを楽しめるようになりました。チームの他のメンバーも同じ時期ぐらいに、意識改革があったようなので、みんなの成長に合わせて私自身も成長できた部分が大きかったと思います。

PBLの授業を終えて、優勝はできなかったけれど、みんなで課題をやり遂げることができたので、達成感とともに私でもちゃんとチームに貢献することができたと思うので、そういう部分で私にも何かできるという自信をつけることができたと思います。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

プログラム作成の時に、ロジカルシンキングやラテラルシンキングなどをはじめ、様々な思考法について調べる機会がありました。思考法は、問題が生じた時に、その問題解決

に向けて色々なアプローチの仕方が出てくると思うので、まださわりの部分しか知らない
ので、学んでいこうと思いました。まだ、授業などで使う機会はないけれど、これから絶
対役に立つものだと思います。

3. PBL から学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

何をするにおいても自ら動いていくことの重要性を学んだので、何事においても一生懸
命自ら取り組んでいきたいと思いました。また、これから就職活動を行っていく上で、グ
ループディスカッションの時も、自分の意見など言えるようになったと思うので、乗り切
っていききたいと思います。この授業を通して、自信をつけることができたので、自分に自
信がないということを言い訳にせず、様々なことにチャレンジしていきたいと思いました。

「体験・経験と失敗・成功することで気づくこと」

経済学部 2年 男子

提供企業：株式会社ベネッセコーポレーション

課題：「社会人基礎力を身につけるためのプログラム作成」

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、 どう成長したか。

私が最初にこの授業で伸ばしたいと考えた課題は、社会人基礎力で言う「主体性」にあ
たる力でした。いつの間にか、もしくは初めから物事に対して消極的であった私が何より
も最初に必要なものだと考えたためです。しかし消極的だった私が、説明会に参加し単位
認可のない PBL を履修し頻繁に行われる班の集まりに参加している時点で、最低限の主
体性を獲得していることに気づきました。その過程で「気づくこと・気づいていないこと
に気づくことが大切なんだな」と当初は当然のことだと思い、自嘲しながら思いついたこ
とでしたが、今では大切な信条としてこれを実感しています。

参加、活動ができるようになった私が次に課題にしたのが「班活動に伴う対人関係の中
でどのように動くか」でした。課題を一人で行うことは、今までの人生で幾度となくあり
ました。対人関係は、閉鎖的な小中高のクラス内でのもの、開放的なものは学年を通じた
関係や大学生活の中で、それぞれ親密なものから表面的なものまで経験してきているはず
でした。しかし、「企業が参加し、課題があり、期限があり、少人数とも大人数ともいえな
い志望者から募った八名でのグループワーク」は私にとってやりにくいものでした。班で
行われる議論で錯綜する意見の中で私は「受け入れる」ことからはじめました。どんなに
正反対の意見でも受け止めて、さらに自分の中で咀嚼し自分の言葉で返すことをはじ
めると、お互いの距離やねじれを確認することもできるようになりました。そんな中で意
識が強くなったのは「自分について」でした。他人は目に見え、意識しやすいものでは
た「自分」を意識し始めたのは遅かったかもしれませんが。これによって自分を知る、でき
ることを探す努力をし始めるとともに他者の意見により自分の意見をつけて返答すること

ができました。当然で平凡なことかもしれませんが、挑戦や参加することのなかったかつての私にとっては、大きく新しい成長だったと実感しています。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

「部活動での私」の具体例を挙げます。二回生になった時、何もせずただ漫然と過ごした一回生の自分を悔いた私は、行動を起こすべく「企業会計研究会」という部に所属しました。そこで先輩の指導を受け、会計学の勉強を始めました。部活動は楽しく、順調でした。二学期になり、行動を起こすことによって得るものが多い事を知った私は、PBLにも参加しました。十一月中旬、幹部交代という三回生が引退して後輩が役職を継ぐ時期になり、二回生である私は役職をもち、下回生を教え指導しなければならない立場に変わりました。その役職は部活動で行っている講義を隔週で数名の班で担当するものでした。本来私は班で行動したり、人を先導したりすることが苦手だったのですが、ほぼ並列して行っていた PBL の班で意識したこと・失敗したことを即座に活かすことで、うまく部活動の班を導くことができました。

3. PBLから学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

タイトルにつけたとおり、私が PBL で学んだことは「体験・経験と失敗・成功することで気づくこと」で得られるものがとても多いということです。これらは事をなすにあたり必ず得られるものであり、同時に事を成さずには得られないものです。常に「参加、挑戦、行動」し続けることが、PBL を通じて出した今後のベストな行動だと私は思います。この行動が基本的に正しいということは、かつての自分の後悔から確信しています。なので、今後はそれに基づきながら発見し、比較し、吟味しながら取り入れて、自分の進む方向を常に自分が納得できる方に修正しながら生きていきたいと思っています。

「将来への自己投資」

経済学部 1年 男子

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

私はこの授業を通じて、チームワーク力の向上と上手な話し方が出来るよう発信力を伸ばしたいと考え、実際の授業に取り組んできました。しかし、チームワーク力を伸ばす事に関しては、意識せずとも他の1回生メンバーと一緒に課題をこなすうちに、次第に定着していったと思います。無遅刻を徹底するためにみんなで対策を練ったり、キャリアインタビューを実施するにあたっての情報を交換したりなどみんなで話し合う機会が非常に多く、また問題が生じたり、話し合いが行き詰ったりした際もメンバー全員で解決するようにしてきたからです。このような機会を通じて、次第にメンバー全員とも慣れ親しむ事が

でき、一丸となって問題を解決する事が当たり前となり、その結果、いつの間にかすばらしいチームワーク力を身につける事が出来ました。

一方、発信力の向上には非常に苦勞しました。慣れ親しんだ相手や少人数を相手にした場合はまだ落ち着いて話をする事が出来るのですが、初対面の相手や大人数を相手にすると緊張してしまい、結果自分の伝えたい事をピンポイントで伝える事が出来なくなってしまったという状態でした。そのため、中間発表やキャリアインタビューを実施するに当たってのアポイント、実際のインタビューなどの数少ない貴重な機会を通じて、特に自分の伝えたい事を分かりやすく伝える事を意識して話すよう努めました。しかし、この授業の集大成とも言える最終報告会では、最初の頃に比べると少しは改善していたと思うのですが、振り返りのときに担当の木原先生に全体的に声が小さかったという指摘を受け、やはりまだまだ未熟だなというのを実感しました。発信力に関しては、PBLでの経験や特別講師の轟さんのアドバイスを参考に日々鍛えていきたいと思います。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

ある一般教科の授業で口頭発表による評価がなされたのですが、その際周りの空気をものにする、つまり人を引きつけるというアドバイスを参考に発表した結果無事単位を取得することが出来ました。

3. PBLから学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

PBLで得た能力は今後の大学生活だけでなく、将来にも十分活用できると思います。そういう意味で将来への自己投資にもつながり、非常に貴重な体験になったと思います。今後は、2回生になって参加するゼミなどで、しっかりと自分を出していけるように、身に付けたチームワーク力や働きかけ力、創造力、傾聴力等を駆使していき、いまだ未発達な発信力の向上を目標にしていきたいと思います。そして、将来社会に出ても即通用するよう、日々PBLで得た技術を実践していきたいと思います。

「新たな発見」

経済学部 1年 男子

1. この授業を通じて、自分が伸ばしたいと考えたテーマ（課題）にどのように取り組み、どう成長したか。

ぼくはこの授業を通じて、仕事とはどういうものなのかを知り、周りの人と協力して物事を解決していきたいと考えてきました。まず仕事とはどういうものなのかを知る機会がキャリアインタビューがありました。キャリアインタビューはPBL1年生クラスのメインプロジェクトで、実際に社会人と会って話をすることができたのでとてもいい体験ができ

ました。また、アポ取りから訪問まで自分でしなければならぬので、それもいい体験でした。ぼくは京都銀行の支店長の方にお話を聞くことができ、仕事への取り組みや熱意、そして工夫などを教えていただきました。この貴重な経験を通じて、仕事とはどういうものなのか、働くとはどういうことなのかを理解することができました。いずれ自分も社会に出るときが来るので、社会に出て恥をかかないよう大学生の間にできることはしっかりやっていきたいと思いました。

次に、周りの人との協調性もしっかり身についたと思います。この授業は少人数制で他の授業とは違い、みんなと意見交換をしたり、自分の意見を相手に伝えるといったことができました。普通の授業では体験できないことなのでとても興味が持てました。特に、インタビューの報告や最終プレゼンの打ち合わせなどでは意見を交換する機会がとて多く、みんなで試行錯誤を繰り返して解決策を見つけ出せたことはとてもいい経験でした。そして、この意見交換によって様々な考えがあることに気づきました。今までは自分の価値観が正しいと思っていたけれど、他の意見を聞くことによって今までは思いもしなかった考え方があることを知ることができました。一言で言うと柔軟な考えができました。

これらのことに意欲的に取り組めたことで、将来仕事に就いたときにも周りの人と協力して問題解決に取り組める自信ができました。PBLを通じて学んだことを違う場面でも活用していきたいと思っています。

2. PBLを受講して、クラブやゼミ・授業または、個人（アルバイト等）において参考になったか。参考となった場合はその具体例。

PBLで学んだことは主に部活動で参考になりました。PBLの授業では話を深く掘り下げる方法を身につけることができました。そしてその方法を用いて部活動の活動でも、相手のことをより深く知ることができました。また、部活動内での話し合いで行き詰ったときに率先して意見を出すことができました。また相手の意見を聞くときにも傾聴力を活かすことができました。さらに部活動だけでなく、授業の中でチームを作りプレゼンをするときにも、同じチームの人の意見を尊重しつつなおかつ自分の意見を積極的に出すことができ、互いに協力しながら行動できました。

3. PBLから学んだことを今後どのように活かしていきたいか。

ぼくはこのPBLで学んだことを様々な場面で活かしていきたいと思います。まずそのひとつにゼミがあります。学年が上がることでゼミの活動が活発になってくると思います。ゼミはプレゼンやディスカッションをする機会が多いと思うので、ぜひそのときにPBLで学んだことを発揮してリーダーシップをとりたいです。ゼミ以外でも、例えば社会人の方とお話する機会があればキャリアインタビューを通じて学んだ話の掘り下げ方などの工夫をしていきたいです。そして自分の視野をさらに広げて、いろいろなことに挑戦していきたいです。

②受講学生のアンケート集計

経済産業省採択 平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業

京都産業大学

2008年度 秋学期 PBL実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ受講学生アンケート集計

履修を終えての満足度～意見～



京都産業大学キャリア教育研究開発センター

【クラス・受講生】

1クラス 日本IBM ・3年次生:2人 ・2年次生:3人
 2クラス 小林工芸 ・3年次生:2人 ・2年次生:4人
 3クラス ヘンッセコーポレーション ・3年次生:6人 ・2年次生:2人
 PBL 実践 I ・1年次生:9人

【受講生学部】

経 済 ・2年次生:3人 ・1年次生:4人
 経 営 ・3年次生:4人 ・2年次生:3人 ・1年次生:4人
 法 学 ・3年次生:5人 ・2年次生:1人 ・1年次生:1人
 外国語 ・3年次生:1人 ・2年次生:2人

【プログラム期間】

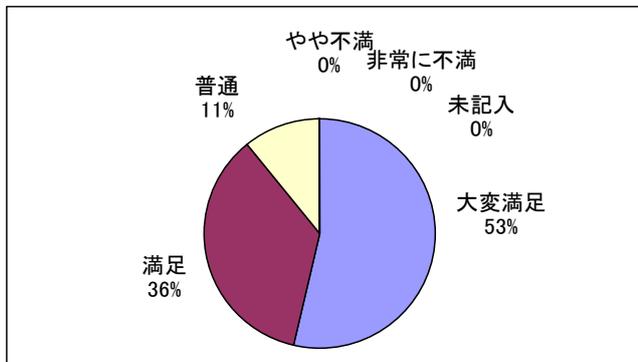
平成20年10月～平成21年2月・21講座開講
 木曜日1時限(9:30～10:30)開講他

平成21年1月15日実施
 受講生:28名 回答数:28名

1. プログラム全体の内容について満足度ほどの程度でしたか

大変満足	満足	普通	やや不満	非常に不満	未記入	総計
15	10	3	0	0	0	28

単位:人



【具体的な声】

『1クラス』

- ・ 授業の枠を越えたグループワークで身についたこと、発見したことは多かった。
- ・ 「社会人基礎力」を意識するきっかけであり、とても重要でした。
- ・ 課題を解決していく中で自分にないものを得られた。

『2クラス』

- ・ 自分の成長の第1歩になってくれたのですごく満足できました。
- ・ 目に見えて、社会人基礎力が向上したと感じたから。
- ・ 普通の授業ではできない事が多く出来て良かった。

『3クラス』

- ・ 自主的に行動していかなければいけない授業だったので、良い経験になった。良い人達と出会う事が出来た。
- ・ 自分達で動いて考えるので、主体的に出来る。
- ・ 企業から与えられた課題に対して、グループで解決していくところに満足した。
- ・ 自ら動き出すきっかけになった授業だと思いました。

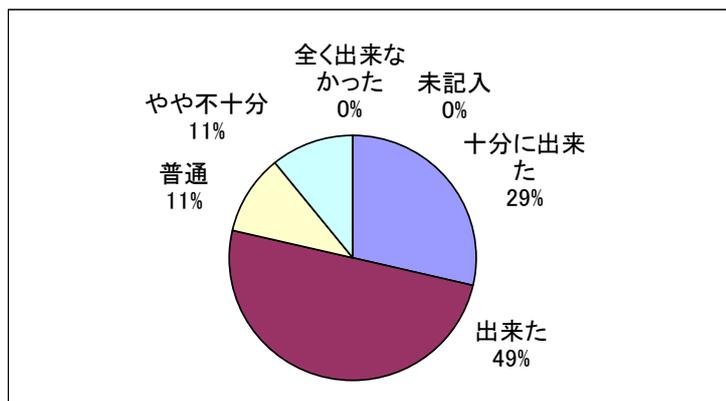
『PBL実践 I』

- ・ キャリアインタビューをすることが出来、訪問した方から教えてもらった事が今後活かされると思います。
- ・ 物事に取り組むことなどについて変わる事が出来たから。
- ・ ディスカッションをすることで自分の意思を相手に伝える事の大切さを知った。
- ・ 自分達が主体的に行う授業を受けることが出来たから。
- ・ 趣旨が分からなくなる時があった。

2. 課題に対する自らの取り組みについて(自己評価)

十分に出来た	出来た	普通	やや不十分	全く出来なかった	未記入	総計
8	14	3	3	0	0	28

単位:人



【具体的な声】

『1クラス』

- ・ 授業以外の時間にもPBLの為の勉強もしたし、よく頑張ったと思います。
- ・ 3年次生に遠慮することなく積極的に発言した。

『2クラス』

- ・ 企業側から頂いた課題についてそれなりに答えられたと思う。
- ・ 私たちは「学外」に出て色々な人に意見を聞きました。その結果、取り組みを深める事が出来ました。
- ・ 授業が進むにつれて積極的に取り組めた。
- ・ 以前よりは成長出来たとは思いますが、もっと頑張れたんじゃないかと思う。
- ・ 発言はまだまだ受動的でしたが、PPT作りやアンケートなどは積極的に出来たと思います。

『3クラス』

- ・ 自分が出来る事は積極的に行ったと思う。
- ・ リーダーとしてどういう風に進めていくべきか最後の最後まで、悩みながら取り組むことが出来、自分で考える事が出来て良かった。
- ・ 色々時間も無く、大変だったけど、みんなが一致団結して取り組むことが出来た。
- ・ 発言し、恐れずに異議異論を唱える事が出来た。
- ・ みんなで話し合っ、自分のすべきことに積極的に取り組んだ。
- ・ 自分も含め、班員全員が十分取り組んでいた。

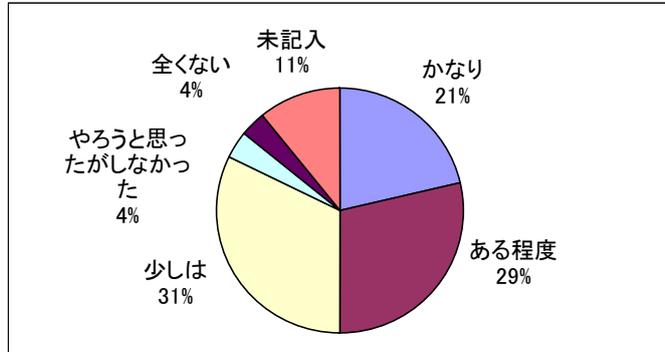
『PBL実践 I』

- ・ 目標に向かって一生懸命取り組むことが出来た。
- ・ アポイントを取るところからも積極的に動く事が出来ました。
- ・ 主体性など、始める前より積極的になれることが出来たから。
- ・ キャリアインタビューを通して、自分が将来どのような道へ進みたいか発見出来た。
- ・ 授業外においても積極的に取り組める。
- ・ インタビューを通し「社会」が見れた。

3. PBL実践を受講して、これまで履修した科目で役に立った科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
6	8	9	1	1	3	28

単位:人



【科目名と理由】

『1クラス』

- ・ 日本語表現、CSR
ブレインストーミングや学生が責任を持つべきと考える元にCSRがあった。
- ・ インターンシップ5
インターンシップで学んだ「人として大切な事」が活かせたと思うからです。
- ・ 演習Ⅰ・Ⅱ
課題解決という内容がこの科目と類似していたので。
- ・ 演習Ⅰ
ゼミでの活動に大切であった。
- ・ キャリア・Re-デザイン
コミュニケーション能力を活かす事が出来た。

『2クラス』

- ・ マーケティング、営業力(他多数)
授業に対する意識が大分変わった。
- ・ 犯罪学、社会教育学、刑事政策
花を使ったセラピーと、幼児の脳のつくりに影響すること、それが犯罪防止につながる事が分かったから。
- ・ マーケティング
マーケティングコミュニケーション
課題がマーケティング中心のことだったので、活かす事が出来た。
- ・ 社会言語学B
英語教育の中で右脳の働きが重要だと言うことを課題解決の中で持ち込めた。
- ・ 社会言語学B
脳の働きについて少し触れていた。

『3クラス』

- ・ 心理学
未記入
- ・ 課外講座のMcas (Excel)
Excelを使う機会があったので。
- ・ ソリューション・ロジカル・シンキング講座
話の組み立て方や困った時の解決の面で考え方が役に立った。
- ・ ソリューション・ロジカル・シンキング講座
何を優先すべきなのか、何が原因なのか、どれが一番正しいのか論理的に考えるきっかけ、方法を学ぶ事が出来た。
- ・ 法学全般
全てにおいて、定義付けをしていく考え方の多い学問なので、客観的に取り組めた。
- ・ ゼミ
ゼミの内容ややり方に満足していなかったが、新しく具体的な提案をし、理由も明確にしたら、ゼミ生の賛同も得られ、さらに新しい案も生まれた。担当の先生も、やり方に異論したにも関わらず快く受け入れてくれて、自発的な姿勢にむしろ喜んで頂けた。

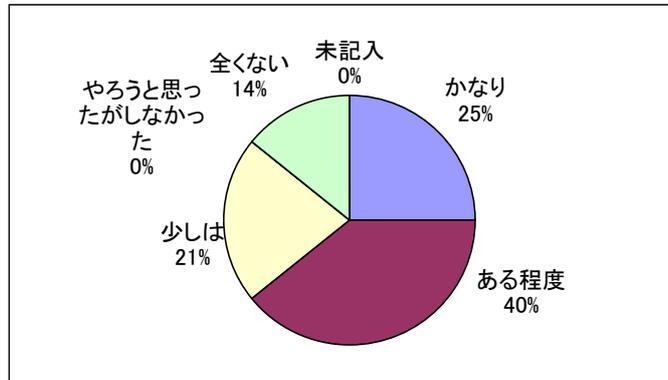
『PBL実践Ⅰ』

- ・ 入門セミナー
数少ない少人数クラスであり、質問することでより深く関わる事が出来たから。
- ・ オーラルコミュニケーション
オーラルクラスでプレゼンをやることになり、チームワークを活かすことが出来たから。
- ・ オーラルコミュニケーション
自分から発言するようになった。
- ・ マーケティング基礎
インタビュー先でマーケティングの専門用語を知っていて、理解しやすかった。
- ・ 外書セミナー
PPTを使っでの発表がスムーズに出来た。

4. PBL実践を受講したことがきっかけになって、今後積極的に履修しようと思う科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
7	11	6	0	4	0	28

単位:人



【科目名とその理由】

『1クラス』

- ・ディスカッションや少人数制の科目
- ・教育関係の授業
- ・PBL実践
- ・キャリア系の科目

チームで働く事は思っている以上に難しい。PBLで勉強して、もっと勉強したいと思った。今回物足りなさを感じたから。自分にない能力を身につけたい。

『2クラス』

- ・マーケティングなど
- ・経営学
- ・消費者行動論、演習
- ・コミュニケーション論
- ・ゼミ(まだどのゼミか発表待ちです)

もっと学びたいと考えるようになった。就活でも、コンサル企業を志望するようになりました。もっと深めたいので、経営学を学びたいです。ゼミをとってなく、3回生からだろうか迷っていたが、履修することにした。これはフランス語でのコミュニケーションだが、自分の考えを言葉にするということは同じで、沢山の授業の中で発言できるようになって行きたいと思うから。少人数のグループで積極的に発言するなど、PBLと重なる点が多いと思います。

『3クラス』

- ・グループワークがある授業
- ・経営学、心理学
- ・クリティカル・シンキングの講座
- ・苦手・あまり知らないような分野
- ・今後の日本の教育について

今までグループワークがある授業は出来るだけ避けてきたがやってみようと思えた。プログラムを作る上で、人の気持ちや考え方は心理学、話し合いの中では経営学が役に立ちもっと知りたくなった。情報を鵜呑みにせず、自分の考え、相手の意見を論理的に考えたい。苦手とされるものでも、必ず努力をすれば、その知識を得ることが出来、次につながるものとなるから。社会人基礎力がなぜ必要とされているか考えを深めるにつれて、危機を感じたから。

『PBL実践 I』

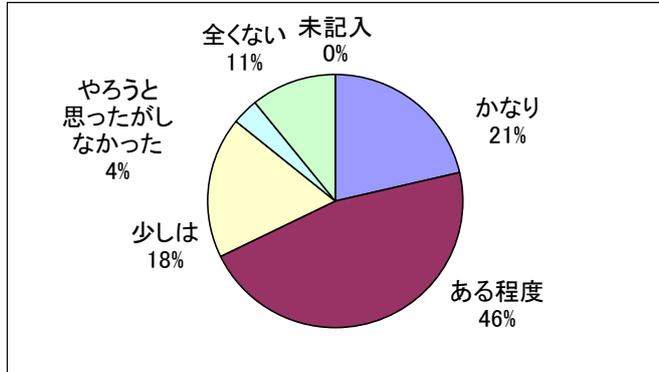
- ・PBL II
- ・PBL II
- ・インターンシップ
- ・秋から始まるゼミ
- ・演習ゼミ

授業で知識以外のものを学べる良い機会だから。せっかくチャレンジし始めたので、途中でやめるのは悔しいから。インターンシップの科目があると知り、このPBLで学んだ事を実際に働くことによって実践したいから。自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いて、考えて言えるようになりたいと思ったから。ゼミでは、自分から積極的に意見を出して話し合いを盛り上げたからです。

5. PBL実践を受講したことがきっかけになって、授業科目以外で積極的に取り組んだものはありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
6	13	5	1	3	0	28

単位:人



【具体的に取り組んだ内容と理由】

『1クラス』

- ・ 就活や大教室でのプレゼン
- ・ 教育の事や大学について
- ・ 春学期に履修していた講義の大半
- ・ 演習 I など

発表したりPPTを作成し、相手に伝える力を養おうと思った。
PBLの課題解決に必要なだったから。
授業に出ている意味を強く意識するようになったので。
何事にも働きかけること。

『2クラス』

- ・ 就活
- ・ 経済、経営用語の理解
- ・ 自分の将来、就活について考えるようになった。
- ・ 授業や普段の会話の中で疑問点や不透明な部分に対し、質問する。

就活に積極的に参加できるようになった。
理解を深める事で、課題にどう取り組むかが分かり、積極的に取り組んだ。
先生や先輩の話を聞いて、今まで特に考えていなかった将来について考えるようになった。
今まで「まあいいか」や「大丈夫だろう」と思って流していたが、それでは何もならないと思い直して、自ら働きかけようと思ったから。

『3クラス』

- ・ パソコンを以前より使うようになった。
- ・ 就職ガイダンス
- ・ 経営学、心理学
- ・ 思考法、心理学、教育学の学習
- ・ 企業フォーラム、ガイダンス
- ・ グループワークやディスカッションなど
- ・ 部活動に活かした

ネット上で意見を出したりする事があったから。
未記入
作る上ですごく必要になったから。
授業に取り入れるため。また、自分の考え方、知識を増やすため。
分からない事があったら、手を挙げて、企業に質問する事が出来たから。
人を説得させる術を学びたいと強く思うようになった。
部活で生じた問題をPBLで学んだ事が応用出来た。

『PBL実践 I』

- ・ 業界研究
- ・ 部活動
- ・ 部活動、アルバイト
- ・ アルバイト、私生活
- ・ 友人と旅に出る計画を立てた
- ・ バイト

実際に企業に訪問する事が出来たので、他にどんな企業があるのか知りたかったから。
部活の時の規律性など今まで以上にしっかりとやらなければいけない気持ちになりそれが出来た。
自分の意思を伝え、相手の意見を聞く、そして練習。職場の雰囲気の良いようにした。
自分の意見を上手く人に伝えるように努力したり、人の話をしっかり聞くようにした。
キャリアインタビューの影響により、自分の世界をもっと広げたくなったから。
活かせるものは何でも活かしたいから。

6. 説明会から最終報告会まで全プログラムについて意見や感想

『1クラス』

- ・ 規律を守るという点で、1限は良かったのかもしれませんが。あと、他のチームとの交流がもっとあれば楽しいのかもかもしれませんし、他のチームの意見や取り組みを見る事で客観的に自己を見るきっかけになると思います。結果は満足しませんでした。やってきた事に嘘はなく、自分を高める事が出来たと思います。今回の失敗を元に、絶対次につなげたいと思います。必ずこの悔しさをバネにし、PBLの力を就活や未来に向けて頑張ってみせませう。
- ・ もっと他のクラスの人と関われば良かったと思いました。あとは非常に学んだものが多く、とても有意義でした。あえて「自分達自身で考えろ」という意味で、自由に見守り続けていてくれた担当の先生、難しいながらもやりがいのある課題を与えてくれた企業の方、そしてPBL自体と巡り合えたことに本当に感謝しています。本当にありがとうございました。PBLで終わりではないので、これからも頑張っていきたいです。
- ・ チーム毎に行われている活動に対して定期的な情報共有をすべきではないかと感じました。その後、他のチームのアドバイス・スクランブルを行うのも良いのではないのでしょうか。それにより、各々のモチベーションアップは勿論のこと、他の良い点を自分達に活かし、より良い取り組みが出来ると思います。
- ・ 改善点:最終報告が企業へのテーマの改善より私たちの成長の方が評価されるのは何とも言えない。個人の成長は、バラバラであり評価するものではないと思う。
感想:5人という人数の中であまり話し合える時間が私にはとれなかったように感じる。今後の課題が沢山残りました。
- ・ 自分達学生が主体となって活動していく中で、自分達がどのような方向に行くのかを見つけていくのは大変だった。時間的には、1年くらいでしていくのがやり易いのではないかと思います。しかし、この短い時間で得られるものは大きかったと思います。形は違うけど、社会人基礎力のような力を身につけるような授業をこれからもして欲しい。

『2クラス』

- ・ 全体的にすごくいいプログラムでけちのつけようがないが、あえて挙げるとしたら、企業側に対する報告を1時間設けて欲しかった。この授業を受けて「責任」を学んだと思うので、課題を頂いた責任としてじっくり報告したいと思った。
- ・ このような素晴らしい講座を受講する機会を与えてくださり、ありがとうございました。私は小林工芸だったので、学外への取り組みが出来ました。学外では、学ぶことが出来なかったことが学びました。それがとても大きかったので、本社が京都にある企業に協力していただく事が良いと思います。
- ・ 普段は、授業に出て教授の話の話を聞いているだけで、積極的に行動を起こす事はないのですが、PBLでは積極的に参加しないとイケないので、大変でしたがとてもやりがいがありました。
- ・ 非常に自分のためになり、成長を実感しています。欲を言えば単位が欲しかったです。
- ・ 途中で苦しいと思うことも何度もあったが、報告会を終えて、達成感があり、また自分が成長する事が出来たと思う。「成長したい」と思うことでより自分を伸ばす事が出来たのかなと思う。「自分から動く」事の大切さを何よりこの授業で感じた。
- ・ PBLを受講して、チームで働くことやプレゼン、アンケートなど今までやったことのないことを多く体験出来、その難しさも実感出来ました。最終報告を終えて、まだ改善の余地はあると思いますが、全力で走ってきて達成感が得られました。

『3クラス』

- ・ 4ヶ月という期間は少し短いように感じました。
- ・ 約4ヶ月間、特に12月に入ってから授業以外でも積極的に参加して大変だったけれど、楽しかったと思えていることが自分の中で変わった部分だと思う。自分とは違う考え方や、今まで知らなかった事など、触れることが出来て良かった。図書室のグループワークの教室が防音だったら良かったのと思う。
- ・ 報告会の時に今までやってきた授業で作ったものに対しても、発表するような機会をつくって欲しい。すごく自分が成長出来る授業で、色々なことを学べるので。
- ・ この授業で一番重要なのは、学生の主体的な取り組みであると考えます。意識の高い、やる気がある学生を増やすという事が必要だと感じます。自分がどれだけできるか、それが一番重要だと思うので楽しかったです。

- ・ 秋学期からの参加という事で、春学期は夏休みがあったため、もっと内容の濃い授業を得られたのではないかと思う反面、秋学期にこのタイミングでこのプログラムを選び、参加しなければ、今いるベネッセクラスのメンバーにも出会う事はなかったと考えれば、今の私のターニングポイントは、この10月であり、自分自身色々な成長をしてきたと考えました。しかし、まだ私は成長中であり、このプログラムで得た能力を今後は社会において、一企業人として活用して行きたいです。もっともっと、他の学生がPBLの存在を知り、色々なことに気付いて成長して欲しいと思います。
- ・ 木曜1時限が辛いです。遅刻率も上がると思います。
- ・ 改善点はありません。問題が生じて、それをどう乗り越えるかを考える授業だと思うからです。

『PBL実践 I』

- ・ はっきり言ってこんなに素晴らしい授業になるとは思わなかった。自分にとっても、とてもいい経験になったし、一緒に協力して頑張れる仲間に出会えた事は一生の財産になると思う。とても貴重な体験であったと思う。これを実生活の色々な部分で活かして行きたいと思う。
- ・ 1年次生クラスは企業から課題をいただくことはなかったものの、深い話し合いをすることが出来、自分を理解する事が出来ました。最終報告会についての意見として、少し慌しかったように思います。
- ・ 楽しくできたので良かったと思います。
- ・ 1年次生では企業から課題をもらって取り組むという授業ではなく、他学年との交流はなかったけれども、その分1年次生同士がお互いに協力し合って、自ら企業を探すというアポイントの部分から出来た事は良かったと思う。来年からは、先輩方と協力して行うので、後輩だからといって主体性が落ちないように今まで以上に頑張っていきたいと思った。授業の初めの頃よりは自分で変わったと思うし、そう思うことが良かった。
- ・ 説明会では分からないことが多すぎた。そういうことを言ってしまうべきがないのかも知れないが、事実そうであった。社会に出ている様々な「大人」の姿をこの目ではっきりと見れたことが何より得たものになっていると感じられる。これはもはやどうにもならない現実であり、目を開けたまま夢を見ることは出来ないという自分の中で改めて納得出来た。なぜなら「大人」はそこに、目の前にいるからだ。頭ではなく肌で、全身で実感出来た。理屈よりも行動で示さなければならないことは分かる。しかし、それはまだ曖昧であり、そう思うといつまでも子供でいたいと思ったのは、紛れもないことである。それでも、今ある柵を乗り越えて、自分自身が正しいと思える自分になりたいと思った。
- ・ 生徒主体のプログラムというのは、とても良いと思う。一人一人に責任感が芽生え、皆が積極的に授業に参加できた。
- ・ 90分では足りないほど、1時限にやらなければいけないこと、決めなければいけないことなど沢山あった。90分でも苦に感じなかったし、楽しく授業に出席することが出来た。完全に社会人基礎力が身に付いたわけではないけれど、課題を考えるその過程で、少しずつですが身に付けることが出来たと感じています。半年では、とても短いと感じたので、1年次生でも春学期からPBLを取れるようにしたら良いと思います。
- ・ テスト期間直前までのプレゼンの迫込みが辛かった。自分が変わったと感じる事が、日常生活の中でもあった。とても役立ったと思います。

2. 資料

資料 1

●社会人基礎力レベル評価基準表					
3つの力	12の要素	発揮できなかった(どうしてもできなかった)	通常の状況では発揮できた(向とかけてきた)	通常の状況で効果的に発揮できた(風事にてきた)困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた)	発揮できた例(※)
	定義	レベル1	レベル2	レベル3	
前出 力 A	主体性	物事に 進んで取り組む力			自分ややるべきことは何かを自問し、自発的に取り組むことができる 自分の思いや目的を把握し、困難な状況でも自ら進んで取り組むことができる
	働きかけ力	他人に働きかけ 巻き込む力			相手の期待を察し、協力することの必要性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 周囲の力を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけることができる
	実行力	目的を設定し 理実に行動する力			小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる 強い意志を持って、困難な状況から逃げずに粘り強く取り組むことができる
考え 抜く力 B	課題発見力	現状を分析し 問題に気づく力			成果のイメージを明確にして、その実現のために課題を特定し、課題を解決するための課題を明らかにする 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求める
	計画力	課題の解決に向けた 準備する力			作業の計画を立て、進捗状況を把握し、柔軟に計画を修正できる 進捗状況や不明な事項を把握し、柔軟に計画を立てられる
	創造力	新しい価値を 生み出す力			経験の共有(もの、考え方、技術等)を組み合わせ、新しいものを生み出すことができる 過去の成功や失敗を振り返り、新しいものを生み出すためのヒントを探している 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
手 で働く力 C	発露力	自分の意見を 分かりやすく伝える力			事例や課題的な子、データを基に、具体的に分かりやすく伝えることができる 聞き手などの立場や状況等を踏まえて、相手を納得させることができる 聞き手などの立場や状況等を踏まえて、相手を納得させることができる
	傾聴力	相手の意見を 丁寧に聴く力			内容の理解や質問等を促しながら、相手の意見を正確に理解することができる 相手の話を素直に聞くことができる 相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや 立場の違いを 理解する力			自分の意見を押しつながら、他人の思いや意見を尊重し、相手を納得させることができる 相手の立場や状況等を踏まえて、相手の意見を尊重し、相手を納得させることができる 立場の違いを踏まえて、相手の意見を尊重し、相手を納得させることができる
人 で働く力 D	情報把握力	自分と周囲の 人々や物事との 関係性を理解する力			周囲から提供されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分と周囲の人間関係(人間関係、忙しさ等)に配慮して、真の方向へ向かうよう行動することができる
	規律性	社会のルールや 入念の約束を守る力			相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 規律や礼儀が特に求められる場面では、相手のないよう厳しくふるまうことができる
	ストレス対応力	ストレスの発生源に 対応する力			ストレスの原因を察して、自分で、または他人の力を借りても取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取り組んだりする等により、ストレスを一時に緩和できる ストレスを感じることは一時的なことであり、ストレスを強く感じないようしている

資料2-①

_____年__月__日

ゴール・セッティング シート

学部_____ 学年__ 学生証番号_____ 氏名_____

この時間の目標

〔この時間に特に意識しようと思う能力要素に○印（裏面の表、複数可）を付けて下さい。〕

この時間に得たこと

〔この時間を振り返り、各能力要について5点満点で裏面の表に点数をつけて下さい。〕

資料 2 - ②

2. 本日の授業を振り返り、各項目について5点満点で点数をつけてください。(自己評価)

分類	能力要素	内 容	この時間中に特に意識しようと思ふもの○印	事後評価 5点満点
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力 例)指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。		／5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例)「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。		／5
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例)言われたことをやるだけでなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。		／5
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例)目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。		／5
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例)課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。		／5
	創造力	新しい価値を生み出す力 例)既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。		／5
チームで働く力 (チームワーク)	発進力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例)自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらおうように的確に伝える。		／5
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例)相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の「意見を引き出す。		／5
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例)自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。		／5
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例)チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。		／5
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例)個々の職業倫理に照らし、自らの発言や行動を適切に律する。		／5
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例)ストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。		／5
			合計	／60

社会人基礎力育成のための 評価システムと実施日程・手順

- ◇育成目標レベルと評価基準
- ◇評価方法
- ◇実施日程・手順

京都産業大学キャリア教育研究開発センター

社会人基礎力レベル評価基準表

3つの力	12の要素	定義	発揮できなかった (どうしてもできなかった)	通常の状態では発揮できた (何とかできた)	通常の状態でも効果的に発揮できた (見事にできた) 困難な状況でも発揮できた (とても難しかったが、何とかできた)
			レベル1	レベル2	レベル3
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる		
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている		
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れず、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる		
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている		
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる		
	創造力	新しい価値を生み出す力	複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している		
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている		
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる		
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそのような考えか、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる		
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる		
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる		
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている		

※各能力要素を発揮できた例は、この内容に限るものではない。

資料3 つづき

◇評価方法

		自己評価	他者評価	
			課題提供 企業担当者	担当教員
事前	事前評価シート	*		モニタリング
中間	中間評価シート	*	面談	モニタリング
事後(1)	事後評価シート(1)	*	面談	モニタリング
事後(2)	事後評価シート(2)	*		モニタリング
ゴールセッティング (毎時間)	ゴールセッティングシート	*		コメントを付して 次週返却
活動記録 (期間中2回)	活動記録シート	*		コメントを付して 次週返却
総括	プロGRESSシート			各評価シート から転載

注：課題提供企業担当者は面談による評価を予定していたが、事情によりモニタリングに変更した。

『記載要領』

【事前】評価シート

□ …学生本人記入欄 □ …教員・講師記入欄

氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日
所属	学部・研究科	学科	専攻	学年		年
科目名		担当教員				

プロジェクトの活動内容・目標

チームで共通の内容をあらかじめ記入しておく
→プロGRESSシートへ転記可能

将来の目標
(前掲科目がある場合) これまでの取組みの振り返り
(今まで学んできたことや身に付いた能力・知識、また反省点や課題について)

参加に際して
このプロジェクトを希望した理由
(例：チームで1つの問題に取り組む経験を通して、実際の企業で行う商品開発の手順を学びたい
これからの社会になくてはならない最先端技術を研究し、将来、企業で〇〇の開発を行いたい)

プロジェクトを通して向上させたい社会人基礎力の能力
(例：働きかけ力、計画力、発信力)

プロジェクトを通して身につけたい専門知識、スキル
(例：テーマとする業界や企業についての知識、統計や調査手法の知識、ホームページ作成のためのプログラミング言語の知識、材料力学の応用知識)

プロジェクトで出したい成果のイメージ
(例：地域ブランドとして定着するぐいぐいの商品を企画したい、
〇〇のPRを■町民も一体となって行えるようなウェブサイトを開発したい など)

教員・講師への連絡・相談
(特になければ、空欄でも構いません)

似たような授業や活動(なければ、普段の活動(授業、部活・サークル、バイト等))を思い出して…

社会人基礎力の分類	能力要素	現在のレベル	評価の根拠(具体的行動事実)
			(いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しようと)したと思うか、もつと努力や工夫が必要と感じたか)
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	①・2・3	(例：2年生の時にやったゼミで、コンビニ利用者にアンケートを行ったが、アンケートの質問項目の検討や結果の分析作業等において、積極的なメンバーがたかさんいたので、自分から何か提案したり、調べたりせず、ほぼ他のメンバーの指示通りに動くだけだった。)
	働きかけ力	①・2・3	
	実行力	1・②・3	
自己分析	課題発見力	1・2・3	以下の基準をもとに、レベルをチェック レベル1: 発揮できなかった (どうしてもできなかった) レベル2: 通常の状況では発揮できた (何とかできた) レベル3: 通常の状況で効果的に発揮できた (発案にできた) 困難な状況でも発揮できた (とてもしなかったが、何とかできた)
	計画力	1・2・3	
	創造力	1・2・3	
	発信力	1・2・3	
チームで働く力 (チームワーク)	傾聴力	1・2・3	
	柔軟性	1・2・3	
	状況把握力	1・2・3	
	規律性	1・2・3	
	ストレスコントロール力	1・2・3	

教員・講師からの 講評・アドバイス		教員・講師名
----------------------	--	--------

資料3 つづき

『記載要領』 □ …学生本人記入欄 □ …教員記入欄 □ …外部評価者記入欄 □ …教員・講師記入欄

中間評価シート 事前～事中(中間)までの評価

氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員	
所属	学部・研究科	学科	専攻	学年	年	協力企業	外部評価者		
活動内容	(進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)								
社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もつと努力や工夫が必要と感じたか)	教員のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	外部評価者のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	教員と外部評価者の総合評価	今後の行動目標
前に踏み出す力(アクション)	主体性								【例:他人の協力が必要な場面で、断られることを恐れず、自分から積極的に働きかけていきたい。】
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力(シンキング)	課題発見力								【学生の特徴をよく表すコメントは、プログレスシートへ転記可能】
	計画力		できれば、中間評価までに「活動記録シート」に記入してきた行動事実を引用して記入することが望ましい						
	創造力								
チームで働く力(チームワーク)	発信力								【学生の特徴をよく表すコメントは、プログレスシートへ転記可能】
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								【他者による評価レベルとコメントも踏まえ、学生が今後の行動目標を書く】
	ストレスコントロール								
その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 (例:データについて回帰分析を行った) 【事後評価シートに「活用した(学んだ)専門知識やスキル等」へ記入する際の参考とする。		気づいたこと (例:回帰分析では説明できないことがあることに気づいた) 【今回活用した知識等の必要性や、自分が習得してきた知識等ではまだ不足していたことなど、気づいたことを記入する】		今後の行動計画 (例:課題解決作業と平行して、教科書で重回帰分析を総合的に学ぶ) 【今後必要な知識等の習得のために、具体的にどのように取り組むかを記入する。】				
現在の活動の達成度から見た今後の行動目標	【例:商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい、企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい 等】								
教員・講師への連絡・相談	【特になければ空欄でも構いません】								
教員・講師からの講評・アドバイス								教員・講師名	

◇実施日程・手順(1)

「PBL実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」実施日程

講義番号	授業日	時間	「PBL実践Ⅰ」			「PBL実践Ⅱ・Ⅲ」		
			形態	講義・実習内容(予定)	形態	講義・実習内容(予定)		
第1講	10月9日	木 1	全体	適性検査1回目 CRATTI PC-TAOK 合計90分(9:00~10:30)	全体	適性検査1回目 CRATTI PC-TAOK 合計90分(9:00~10:30)		
第2講	10月12日	1	全体	ファーストミーティング、オリエンテーション、事前(自己)評価提出、モックアップ	全体	ファーストミーティング、オリエンテーション、事前(自己)評価提出、モックアップ		
第3講		2		マインドマップ研修1		マインドマップ研修1		
第4講		3		マインドマップ研修2		マインドマップ研修2		
第5講		4		マインドマップ研修3		マインドマップ研修3		
第6講	10月16日	木 1	PBLⅠ	課題(キャリア・インタビュー)説明	チーム別	企業からの課題説明		
第7講	10月23日	木 1	PBLⅠ	クラス授業1	チーム別	チーム別授業1		
第8講	10月30日	木 1	全体/PBLⅠ	適性検査1回目フィードバックとクラス別授業2 活動記録シート提出	全体/チーム別	適性検査1回目フィードバックとチーム別授業2 活動記録シート提出		
第9講	11月4日	3	PBLⅠ	クラス授業3	チーム別	チーム別授業3		
第10講		4		クラス授業4		チーム別授業4		
第11講	11月6日	木 1	PBLⅠ	クラス授業5	チーム別	チーム別授業5		
第12講	11月13日	木 1	PBLⅠ	クラス授業6、中間(自己)評価配布	チーム別	チーム別授業6、中間(自己)評価配布		
第13講	11月20日	木 1	PBLⅠ	クラス授業7、中間(自己)評価提出	チーム別	中間報告(企業担当者来学)、中間(自己)評価提出、中間(他者)評価		
第14講	11月27日	木 1	PBLⅠ	クラス別授業8、活動記録シート提出	チーム別	チーム別授業7 活動記録シート提出		
第15講	12月4日	木 1	PBLⅠ	クラス授業9	チーム別	チーム別授業8		
第16講	12月11日	木 1	PBLⅠ	クラス授業10	チーム別	チーム別授業9		
第17講	12月18日	木 1	PBLⅠ	クラス授業11	PBLⅡ・Ⅲ	全体授業(ビジネス・マナー、プレゼン講習)		
上記以外に、適時フィールドワーク:現地調査・アンケート調査・聞き取り調査・学外資料収集等(うち、担当者の引率3回)								
第18講	1月8日	木 1	PBLⅠ	クラス授業12 報告会(各グループ内の報告と相互評価)	チーム別	チーム別授業10 報告会(各チーム内の報告と相互評価)		
第19講	1月10日	土 1	全体	適性検査2回目 CRATTI PC-TAOK 合計2時間(9:00~11:00)事後(自己)評価(1)を配布	全体	適性検査2回目 CRATTI PC-TAOK 合計2時間(9:00~11:00)事後(自己)評価(1)を配布		
第20講	1月15日	木 1	PBLⅠ	最終報告会、事後評価(1)提出、事後評価(2)配布	チーム別	最終報告会(企業担当者来学)、事後評価(1)提出、事後(他者)評価(1)、事後評価(2)配布		
第21講	2月下旬		全体	事後(自己)評価(2)提出・適性検査2回目的フィードバックと就職支援セミナー	全体	事後(自己)評価(2)提出・適性検査2回目的フィードバックと就職支援セミナー		

資料3 つづき

『記載要領』 □ ……学生本人記入欄 □ ……教員記入欄 □ ……外部評価者記入欄

事後評価シート① 事中(中間)～終了時までの評価

氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員
所属	学部・研究科	学科	専攻	学年	年	協力企業		外部評価者
活動内容 (進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)								

社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) <small>(いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発達(しよう)したと考える、もっと努力や工夫が必要と感じたか)</small>	教員のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	外部評価者のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	教員と外部評価者の総合評価	今後の行動目標
前に踏み出す力(アクション)	主体性								他者による評価レベルとコメントも踏まえ、学生がプロジェクト終了後の目標を書く
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力(シンキング)	課題発見力								できれば、事後評価までに「活動記録シート」に記入してきた行動事実を引用して書くことが望ましい。
	計画力								
	創造力								
チームで働く力(チームワーク)	発信力								教員と外部評価者の評価レベルをもとに、再度、教員が総合的に判断し、評価結果を記入→プログレスシートへの転記可能
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
	ストレスコントロール力								
その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 <small>(例:データについて回帰分析を行った)</small>			気づいたこと <small>(例:回帰分析では説明できないことがあることに気が付いた)</small>			今後の行動計画 <small>(例:課題解決作業と平行して、教科書で重回帰分析を学ぶ)</small>		
現在の活動の達成度から見た今後の行動目標	<small>(例:商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい。企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい。等)</small>								
教員・講師への連絡・相談	<small>(特になければ空欄でも構いません)</small>								

『記載要領』 □ ……学生本人記入欄 □ ……教員記入欄 □ ……教員・講師記入欄

【事後】評価シート② プロジェクト活動全体の振り返り

分類	要素	事前レベル	中間レベル	事後レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルの推移を証明できる事実)	関連科目名	内容
前に踏み出す力(アクション)	主体性				プロジェクト全体を通して、自分自身の行動を振り返り、当初はできなかったことができるようになったことなど、自身の成長を具体的に行動事実で記載する。	活用した(学んだ)専門知識やスキル等	プロジェクト全体を通して学んだ専門知識・スキルを、中間・事後評価の「その他習得を目指す知識・スキル等」も参考にして、教員が記入する→プログレスシートへ転記可能
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力(シンキング)	課題発見力				<small>(例:プロジェクト前半では、議論の最中、自分が出した企画に対してチームメイトから反対の意見が出ると感情的になってしまい、他者の意見に聞く耳を持たなかった。しかし、中間評価で自身の柔軟性が弱いことを知り、他人の反対意見の良い部分を積極的に取り入れていこうと意識した結果、徐々に柔軟に受け入れられるようになり、チームメイトに指摘された自分の企画の短所を補うアイデアをチーム全員で考えた結果、自分一人ではとてもおもしろくないような企画にまとまり、学内の成果発表会でも大好評だった。)</small>	(チームとしての)活動成果	チームとして共通の内容を記入→プログレスシートへ転記可能
	計画力						
	創造力						
チームで働く力(チームワーク)	発信力					プロジェクトでの役割・担当としての活動	教員が学生個人別に記入する→プログレスシートへ転記可能
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
ストレスコントロール力							
教員・講師からの講評・アドバイス							教員・講師名

資料3 つづき

活動記録シート

…学生本人記入欄

…教員記入欄

氏名		学籍番号		記入日	平成	年	月	日()
所属	学部・研究科			学科・専攻	学年	年		

活動期間	月	日()	～	月	日()	第	週
------	---	------	---	---	------	---	---

活動の内容	
-------	--

分類	能力要素	発揮(しよう)した または 発揮できなかった 能力	評価の根拠 (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか等を具体的に記入)
前に踏み出す力 (アクション)	主体性		<p>記載要領</p> <p>以下の基準で、評価する</p> <p>レベル1: 発揮できなかった(どうしてもできなかった)</p> <p>レベル2: 通常の状態では発揮できた(何とかできた)</p> <p>レベル3: 通常の状態でも効果的に発揮できた(見事にできた)</p> <p>困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた)</p> <p>以下のような場面などを思い出し、そのような場面があれば、発揮できたかどうかを振り返ってください。</p> <p>主体性…課題解決に向けて、自分から行動を起こすことができたか</p> <p>働きかけ力…他人を巻き込むために働きかけなければならない場面</p> <p>実行力…決めたことを最後までやり抜くことができたか</p> <p>課題発見力…現状を分析して、何が問題かを見つけたことをしたか</p> <p>計画力…目標達成に向けて、計画を作成・確認・修正したか</p> <p>創造力…課題解決のために新しいアイデアや解決策を提案できたか</p> <p>発信力…自分の意見を他人に分かり易く話さなければならない場面</p> <p>傾聴力…他人が話している内容を聞き取らなければならない場面</p> <p>柔軟性…自分と他人の意見が食い違ってしまった場面</p> <p>状況把握力…他人と協働するため、周囲の状況によく配慮して行動しなければならない場面</p> <p>規律性…約束・ルール・マナーを気を付けなければならない場面</p> <p>ストレスコントロール力…目標達成のために、ストレスを感じた場面</p>
	働きかけ力		
	実行力		
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力		
	計画力		
	創造力		
チームで働く力 (チームワーク)	発信力		
	傾聴力		
	柔軟性		
	状況把握力		
	規律性		
	ストレスコントロール力		

裏面に12の能力要素の説明をつけておく

教員への連絡・質問・悩み・その他(問題点を含むチームの活動状況)

担当教員からのコメント

平成●●年度

社会人基礎力育成型科目



プログレスシート

～あゆみと成長の記録～

学生証番号●●●●●●●●

学生氏名 ●● ●●

資料4-②

社会人基礎力に関する気づきと成長記録					
大学	学部・研究科	学科・専攻	氏名		
学籍番号					
科目				担当教員	
プロジェクトの 活動内容、目標					
協力企業				外部評価者	
■自己評価の履歴					
分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルを証明できる事実)
前 に 踏 み 出 す 力 (ア ク シ ョ ン)	主体性				
	働きかけ力				
	実行力				
考 え 抜 く 力 (シ ン キ ン グ 力)	課題発見力				
	計画力				
	創造力				
チ ー ム で 働 く 力 (チ ー ム ワ ー ク 力)	発信力				
	傾聴力				
	柔軟性				
	状況把握力				
	規律性				
	ストレスコントロール力				

資料4-③

活用した (学んだ) 専門知識や スキル等	関連科目名	内容
(チームとしての) 活動成果		
プロジェクトでの役割 担当としての活動		

■他者(教員・外部評価者<企業人等>)評価の履歴

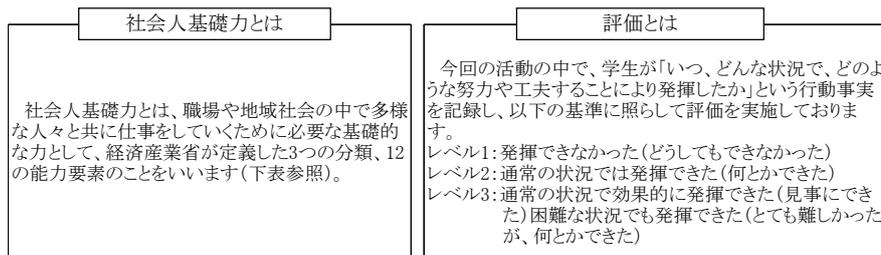
分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (各能力要素レベルを証明できる事実・評価の根拠)	
					事前・中間	中間・事後
(前に踏み出す力)	主体性	/			(記入者)	(記入者)
	働きかけ力	/				
	実行力	/				
(シinkinキング力)	課題発見力	/			(記入者)	(記入者)
	計画力	/				
	創造力	/				
(チームで働く力)	発信力	/			(記入者)	(記入者)
	傾聴力	/				
	柔軟性	/				
	状況把握力	/				
	規律性	/				
	ストレスコントロール力	/				

資料4-④

◆「プロGRESSシート(あゆみと成長の記録)」について◆

「プロGRESSシート」は、学生が受講した社会人基礎力育成型科目の活動の中で、どのような行動や学習をしたのか、活動終了時にお知らせするものです。社会人基礎力の12の能力要素に照らした学生の強み・弱みの自己評価・他者評価、その成長の記録、プロジェクトでの役割やチームとしての成果などをまとめています。

学生の皆さんは、このシートをこれまでの活動の振り返りや、今後の更なる成長に向けて何を行うべきかを考える材料の一つとして、活用してください。また、企業の皆様には、学生への理解を深め、今後のキャリアパスを考える材料の一つとして、ぜひこのシートをご活用ください。



分類	能力要素	定義	発揮できた例
(前に踏み出す力)	主体性	物事に進んで取り組む力	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れず、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる
(考え抜く力)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力	複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
(チームで働く力)	発信力	自分の意見を分かりやすく伝える力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそう考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りても取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取り組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている

資料 5

【事前】評価シート				
氏名			学籍番号	記入日 平成 年 月 日
所属	学部・研究科		学科・専攻	学年 年
科目名			担当教員	
プロジェクトの活動内容・目標				
参加に際して	将来の目標			
	(前提科目がある場合) これまでの取組みの振り返り			
	このプロジェクトを希望した理由			
	プロジェクトを通して向上させたい社会人基礎力の能力			
	プロジェクトを通して身につけたい専門知識、スキル			
	プロジェクトで出したい成果のイメージ			
教員・講師への連絡・相談				
自己分析	社会人基礎力の分類	能力要素	現在のレベル	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮しようとしたと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか)
	前に踏み出す力 (アクション)	主体性	1・2・3	
		働きかけ力	1・2・3	
		実行力	1・2・3	
	考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	1・2・3	
		計画力	1・2・3	
		創造力	1・2・3	
	チームで働く力 (チームワーク)	発信力	1・2・3	
		傾聴力	1・2・3	
		柔軟性	1・2・3	
		状況把握力	1・2・3	
		規律性	1・2・3	
		ストレスコントロール力	1・2・3	
教員からの講評・アドバイス (※記入不要)			教員名	

事後評価シート									
事中(中間)～終了時までの評価									
氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員	
所属	学部・研究科		学科・専攻		学年	年	協力企業	外部評価者	
活動内容	(進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)								
社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) <small>(いつ、どんな状況/場面で、どのように努力または工夫をしたかと思えば、もつと努力や工夫が必要と感じたか)</small>	教員のレベル評価 <small>(※記入不要)</small>	評価の根拠(具体的行動事実) <small>(※記入不要)</small>	外部評価者のレベル評価 <small>(※記入不要)</small>	評価の根拠(具体的行動事実) <small>(※記入不要)</small>	教員と外部評価者の総合評価 <small>(※記入不要)</small>	今後の行動目標
前に踏み出す力	主体性								
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力	課題発見力								
	計画力								
	創造力								
チームで働く力	発信力								
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
	ストレスコントロール力								
その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 <small>(例: 重回帰分析を学び、実際にデータ分析を試してみた)</small>		気づいたこと <small>(例: 回帰分析だけでなく、色々な分析手法の重要性がわかった)</small>			今後の行動計画 <small>(例: 統計ソフトを使いこなせるようになりたい)</small>			
現在の活動の達成度から見た今後の行動目標	<small>(例: 商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい。企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい 等)</small>								
教員への連絡・相談 <small>(※記入不要)</small>	<small>(特になければ空欄でも構いません)</small>								

プロジェクト活動全体の振り返り

【事後】評価シート②

分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルの推移を 証明できる事実)	関連科目名	内容
前に踏み出す 力 (アクション)	主体性						
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力						
	計画力						
	創造力						
チームで働く力 (チームワーク)	発信力						
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
	ストレスコントロール力						
教員からの講評・アドバイス (※記入不要)							
							教員名

活動記録シート		学籍番号	記入日	平成	年	月	日()
氏名							
所属	学部・研究科		学科・専攻	学年			年
活動期間	月	日()	～	月	日()	第	週
活動の内容							
分類	能力要素	発揮(しよう)した または 発揮できなかった 能力	評価の根拠 (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか等を具体的に記入)				
前に踏み出す力 (アクション)	主体性		<p>以下の基準で、評価する</p> <p>レベル1: 発揮できなかった(どうしてもできなかった)</p> <p>レベル2: 通常の状態では発揮できた(何とかできた)</p> <p>レベル3: 通常の状態でも効果的に発揮できた(見事にできた)</p> <p>困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた)</p> <p>以下のような場面などを思い出し、そのような場面があれば、発揮できたかどうかを振り返ってください。</p> <p>主体性…課題解決に向けて、自分から行動を起こすことができたか</p> <p>働きかけ力…他人を巻き込むために働きかけなければならない場面</p> <p>実行力…決めたことを最後までやり抜くことができたか</p> <p>課題発見力…現状を分析して、何が問題かを見つけることをしたか</p> <p>計画力…目標達成に向けて、計画を作成・確認・修正したか</p> <p>創造力…課題解決のために新しいアイデアや解決策を提案できたか</p> <p>発信力…自分の意見を他人に分かり易く話さなければならない場面</p> <p>傾聴力…他人が話している内容を聞き取らなければならない場面</p> <p>柔軟性…自分と他人の意見が食い違ってしまった場面</p> <p>状況把握力…他人と協働するため、周囲の状況によく配慮して行動しなければならない場面</p> <p>規律性…約束・ルール・マナーを気を付けなければならない場面</p> <p>ストレスコントロール力…目標達成のために、ストレスを感じた場面</p>				
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力						
	計画力						
	創造力						
チームで働く力 (チームワーク)	発信力						
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
	ストレスコントロール力						
		裏面に12の能力要素の説明をつけておく					
教員への連絡・質問・悩み・その他(問題点を含むチームの活動状況)							
担当教員からのコメント							